

仕訳問題 その3 (問題)

次の各取引について仕訳をしなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現 金	当 座 預 金	売 掛 金	未 収 金	仮 払 法 人 税 等
積 送 品	試 用 品	未 収 有 価 証 券 利 息	車 両	建 設 仮 勘 定
の れ ん	満 期 保 有 目 的 債 券	支 払 手 形	買 掛 金	前 受 金
従 業 員 預 り 金	借 入 金	未 払 法 人 税 等	車 両 減 価 償 却 累 計 額	試 用 品 売 上
仕 入 割 引	有 価 証 券 利 息	仕 入	仕 入 値 引	保 険 料
減 価 償 却 費	法 定 福 利 費	手 形 売 却 損	保 証 債 務 費 用	法 人 税 等
保 証 債 務 見 返	保 証 債 務	試 用 仮 売 上	諸 資 産	諸 負 債

1. 練馬商事は、期中に赤塚商事を買収し、代金 8,000,000 円は小切手を振り出して支払った。なお、買収日における赤塚商事の諸資産は 20,000,000 円、諸負債は 15,000,000 円であり、諸資産の時価は 22,000,000 円である。
2. 成増商事株式会社は、決算日（平成×5 年 3 月 31 日）に当たり手持ちの和光株式会社発行の社債について決算整理仕訳を行った。この社債（額面金額：2,000,000 円、取得日：平成×2 年 4 月 1 日、取得価額：@¥100 につき@¥96、償還期間：5 年、年利率：3%、利払日：毎年 6 月および 12 月末日）は満期保有目的で取得したもので、償却原価法（定額法）を適用する。なお、各計算は月割により行うこと。
3. 朝霞商店は、社会保険事務所に従業員の社会保険料 300,000 円を現金で支払った。なお、このうち半分は当社が負担し、残りの半分は従業員が負担している。従業員の負担分は、すでに給料の支払時に支給額から差し引いてある。
4. 志木商店は、かねて柳瀬商店に A 商品 50 個（原価@¥2,000、売価@¥3,000）と B 商品 30 個（原価@¥4,000、売価@¥5,500）を試送していたが、本日、A 商品全てを購入する旨の通知を受け、B 商品全ては返品された。なお、当店は試用品勘定を用いて手許商品と区別する方法により処理を行っている。
5. みずほ商店は委託販売のため、商品（原価：1,200,000 円、売価：1,800,000 円）を発送し、同時に額面 900,000 円の荷為替を取組み、割引料 15,000 円を差し引かれ、手取り金は当座預金とした。なお発送諸掛 30,000 円は現金で支払った。
6. 鶴瀬商店は決算に際し、営業用の車両（取得原価 3,000,000 円、帳簿価額 2,000,000 円、直接法で記帳）に対し、生産高比例法によって減価償却を行った。この車両の残存価額は取得原価の 10%、見積走行可能距離は 25 万キロであり、当期の実際走行距離は 3 万キロであった。
7. 富士見商店は、債務保証をしていた取引先が、期日に 3,000,000 円の借入金の返済が不能となり、債権者から利息 200,000 円を含めて返済を求められたので、小切手を振り出して支払った。なお、同社は保証債務については対照勘定を用いて備忘記録をしている。
8. 上福岡商店は、決算の結果により、税引前当期純利益 2,200,000 円の 40%を法人税等として計上した。なお、中間納付額として 400,000 円を支払っており、仮払法人税等として処理をしている。
9. 新河岸商店は、新規建物の建築を依頼し、工事代金のうち 3,000,000 円を手付金として現金で支払った。
10. 川越商店は、仕入先に対する買掛金 500,000 円の支払いに際し、汚損による 20,000 円の値引と代金の早期支払による 30,000 円の割引額を控除した残額を約束手形を振り出して支払った。